

1

問題のページへ

(1)  $y = x \sin^2 x$  …… ,  $y = x$  …… に対して,  $x$  座標が正の共有点は,

$$x \sin^2 x = x, \quad \sin^2 x = 1, \quad \sin x = \pm 1$$

これより,  $x_1 = \frac{\pi}{2}$ ,  $x_{n+1} = x_n + \pi$  となり,

$$x_n = \frac{\pi}{2} + (n-1)\pi = \left(n - \frac{1}{2}\right)\pi$$

さて, より,  $y' = \sin^2 x + 2x \sin x \cos x = \sin^2 x + x \sin 2x$ そこで,  $x = \left(n - \frac{1}{2}\right)\pi$  において,

$$y' = \sin^2 \left(n - \frac{1}{2}\right)\pi + \left(n - \frac{1}{2}\right)\pi \sin(2n-1)\pi = (\pm 1)^2 = 1$$

よって, 曲線 と直線 は, 点  $A_n$  において接している。(2)  $0 < \sin^2 x < 1$  から,  $x > 0$  において  $x \sin^2 x < x$  となり, 線分  $A_n A_{n+1}$  と曲線 で囲まれる部分の面積  $S$  は,

$$S = \int_{x_n}^{x_{n+1}} (x - x \sin^2 x) dx = \int_{x_n}^{x_{n+1}} x \cos^2 x dx = \frac{1}{2} \int_{x_n}^{x_{n+1}} x(1 + \cos 2x) dx$$

ここで, (1)より,  $x_n = \left(n - \frac{1}{2}\right)\pi$ ,  $x_{n+1} = \left(n + \frac{1}{2}\right)\pi$  なので,

$$\begin{aligned} \int_{x_n}^{x_{n+1}} x dx &= \left[ \frac{x^2}{2} \right]_{x_n}^{x_{n+1}} = \frac{1}{2} (x_{n+1}^2 - x_n^2) = \frac{1}{2} (x_{n+1} + x_n)(x_{n+1} - x_n) \\ &= \frac{1}{2} \cdot 2n\pi \cdot \pi = n\pi^2 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \int_{x_n}^{x_{n+1}} x \cos 2x dx &= \left[ \frac{1}{2} x \sin 2x \right]_{x_n}^{x_{n+1}} - \frac{1}{2} \int_{x_n}^{x_{n+1}} \sin 2x dx \\ &= \frac{1}{2} (x_{n+1} \sin 2x_{n+1} - x_n \sin 2x_n) + \frac{1}{4} \left[ \cos 2x \right]_{x_n}^{x_{n+1}} \\ &= \frac{1}{4} (\cos 2x_{n+1} - \cos 2x_n) = \frac{1}{4} (\cos(2n+1)\pi - \cos(2n-1)\pi) \\ &= \frac{1}{4} (-1+1) = 0 \end{aligned}$$

したがって,  $S = \frac{1}{2} n\pi^2$  である。

## [ 解 説 ]

微積分の総合問題です。曲線 と直線 の位置関係は明らかなので, 図を描くまでもありません。

2

問題のページへ

$P(p, p)$ ,  $P'(p', -p')$ ,  $Q(x, y)$ とおくと,  $\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OP'} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OQ}$ より,

$$p + p' = a + x, \quad p - p' = b + y$$

よって,  $p = \frac{1}{2}(a + b + x + y) \dots\dots\dots$

$$p' = \frac{1}{2}(a - b + x - y) \dots\dots\dots$$

また,  $k$  を実数として,  $\overrightarrow{AP'} = k\overrightarrow{AP}$ より,

$$(p' - a, -p' - b) = k(p - a, p - b)$$

よって,  $(p' - a)(p - b) + (p' + b)(p - a) = 0 \dots\dots\dots$

を に代入して,

$$\frac{1}{4}(-a - b + x - y)(a - b + x + y) + \frac{1}{4}(a + b + x - y)(-a + b + x + y) = 0$$

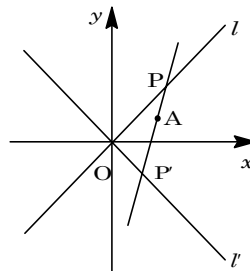
$$(x - b)^2 - (y + a)^2 + (x + b)^2 - (y - a)^2 = 0$$

まとめると,  $x^2 - y^2 = a^2 - b^2$

点  $A(a, b)$  は  $y = x$ ,  $y = -x$  上にないことより,  $b \neq \pm a$  から  $a^2 - b^2 \neq 0$  であり,

$$\frac{x^2}{a^2 - b^2} - \frac{y^2}{a^2 - b^2} = 1$$

したがって, 点  $Q$  の軌跡は  $l: y = x$  と  $l': y = -x$  を漸近線とする双曲線となる。



### [ 解 説 ]

文系に  $l$  と  $l'$  が  $x$  軸,  $y$  軸となっている類題が出ています。しかし, 本問に出合ったとき, 座標系の回転を思いつくのは, 容易なことではありません。

3

問題のページへ

(1) 条件より,  $n+1 = a(y+n+1) + by$ ,  $n+1 = (a+b)y + a(n+1)$ 任意の  $y$  に対して成立する条件は,  $a+b=0$ ,  $a(n+1) = n+1$  となり,

$$a=1, b=-1$$

(2)  $\frac{n!}{x(x+1)\cdots(x+n)} = \sum_{r=0}^n (-1)^r \frac{{}^n C_r}{x+r}$  ..... の成立を数学的帰納法で証明する。(i)  $n=1$  のとき

$$\text{の左辺} = \frac{1}{x(x+1)}, \quad \text{の右辺} = \frac{{}_1 C_0}{x} - \frac{{}_1 C_1}{x+1} = \frac{1}{x} - \frac{1}{x+1} = \frac{1}{x(x+1)}$$

よって,  $n=1$  のとき成立する。(ii)  $n=k$  のとき

$$\frac{k!}{x(x+1)\cdots(x+k)} = \sum_{r=0}^k (-1)^r \frac{{}^k C_r}{x+r}$$
 ..... の成立を仮定する。

ここで,  $(k+1)! = (k+1)k!$  を用いると, (1) および より,

$$\begin{aligned} \frac{(k+1)!}{x(x+1)\cdots(x+k+1)} &= \frac{k!}{x(x+1)\cdots(x+k)} - \frac{k!}{(x+1)(x+2)\cdots(x+k+1)} \\ &= \sum_{r=0}^k (-1)^r \frac{{}^k C_r}{x+r} - \sum_{r=0}^k (-1)^r \frac{{}^k C_r}{x+1+r} \dots\dots\dots \end{aligned}$$

さて, いったん  $r+1=s$  とおきかえると,

$$\sum_{r=0}^k (-1)^r \frac{{}^k C_r}{x+1+r} = \sum_{s=1}^{k+1} (-1)^{s-1} \frac{{}^k C_{s-1}}{x+s} = - \sum_{r=1}^{k+1} (-1)^r \frac{{}^k C_{r-1}}{x+r} \dots\dots\dots$$

より,

$$\begin{aligned} \frac{(k+1)!}{x(x+1)\cdots(x+k+1)} &= \sum_{r=0}^k (-1)^r \frac{{}^k C_r}{x+r} + \sum_{r=1}^{k+1} (-1)^r \frac{{}^k C_{r-1}}{x+r} \\ &= \frac{{}^k C_0}{x} + \sum_{r=1}^k (-1)^r \frac{{}^k C_r + {}^k C_{r-1}}{x+r} + (-1)^{k+1} \frac{{}^k C_k}{x+k+1} \\ &= \frac{1}{x} + \sum_{r=1}^k (-1)^r \frac{{}^{k+1} C_r}{x+r} + (-1)^{k+1} \frac{1}{x+k+1} \\ &= \sum_{r=0}^{k+1} (-1)^r \frac{{}^{k+1} C_r}{x+r} \end{aligned}$$

よって,  $n=k+1$  のとき, は成立する。(i)(ii)より, すべての自然数  $n$  について, は成立する。

## [ 解 説 ]

数学的帰納法による証明において, 式変形を進めると, (1)の恒等式だけでなく, 二項係数の関係  ${}^k C_r + {}^k C_{r-1} = {}^{k+1} C_r$  を利用するという方針が見えてきます。

4

問題のページへ

条件より、点  $G$  は  $OAB$  の重心であり、 $\overrightarrow{OP} = a\overrightarrow{OA}$ 、 $\overrightarrow{OQ} = b\overrightarrow{OB}$  なので、

$$\overrightarrow{OG} = \frac{1}{3}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{3}\overrightarrow{OB} = \frac{1}{3a}\overrightarrow{OP} + \frac{1}{3b}\overrightarrow{OQ}$$

$G$  が  $OPQ$  の内部に含まれるための必要十分条件は、

$$\frac{1}{3a} > 0, \frac{1}{3b} > 0, \frac{1}{3a} + \frac{1}{3b} < 1$$

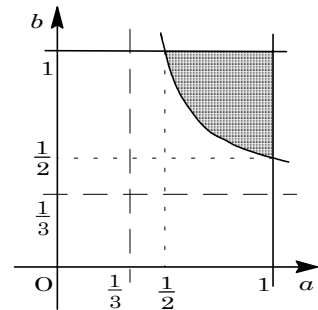
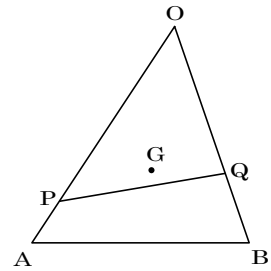
$0 < a < 1, 0 < b < 1$  より、 $\frac{1}{3a} > 0, \frac{1}{3b} > 0$  は成立し、

$$\frac{1}{3a} + \frac{1}{3b} < 1$$

変形すると、 $\frac{1}{3b} < \frac{3a-1}{3a}$  となり、 $3a-1 > 0$  のもとで、

$$b > \frac{a}{3a-1} = \frac{1}{3} + \frac{1}{3(3a-1)}$$

よって、点  $(a, b)$  の範囲を図示すると、右図の網点部となる。ただし、境界線は含まない。



### [ 解 説 ]

まったく同じ問題を解いたことのあるような感じがします。単なる既視感かもしれませんが。

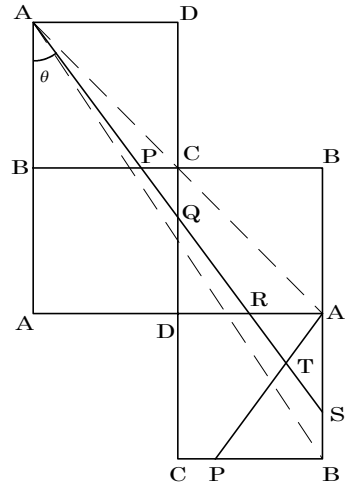
5

問題のページへ

- (1) 右図のように、正方形 ABCD を辺 BC, CD, DA に関して、順に折り返していく。すると、条件より、折れ線 APQRS は 1 本の直線になる。

さて、点 S が辺 AB 上にあるとき、点 P, Q, R は、それぞれ辺 BC, CD, DA 上に存在する。

ここで、点 S が点 A と一致するとき  $BP = 1$ 、点 S が点 B と一致するとき  $BP = \frac{2}{3}$  となり、求める条件は、 $BP = t$  から  $\frac{2}{3} < t < 1$  である。



- (2) まず、 $\angle BAP = \theta$  とおくと、 $\tan \theta = t$  となる。

そこで、 $\angle CQP = \angle DQR = \angle ASR = \theta$  から、

$$CP = 1 - t, \quad CQ = \frac{1-t}{\tan \theta} = \frac{1-t}{t}$$

$$DQ = 1 - \frac{1-t}{t} = \frac{2t-1}{t}, \quad DR = \frac{2t-1}{t} \tan \theta = 2t-1, \quad AR = 1 - (2t-1) = 2-2t$$

$$\text{これより, } \triangle ABP = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot t = \frac{t}{2}, \quad \triangle PCQ = \frac{1}{2}(1-t) \cdot \frac{1-t}{t} = \frac{(1-t)^2}{2t}$$

$$\triangle QDR = \frac{1}{2}(2t-1) \cdot \frac{2t-1}{t} = \frac{(2t-1)^2}{2t}$$

また、RS と AP の交点を T とするとき、 $\angle TAS = \angle TSA = \theta$  から、 $\triangle TAS$  は二等辺三角形となり、T から AR への垂線の長さは、AS の  $\frac{1}{2}$  であるので、

$$AS = \frac{2-2t}{\tan \theta} = \frac{2-2t}{t}, \quad \triangle RAT = \frac{1}{2}(2-2t) \cdot \frac{2-2t}{2t} = \frac{(1-t)^2}{t}$$

したがって、四角形 PQRT の面積  $f(t)$  は、

$$\begin{aligned} f(t) &= 1 - \frac{t}{2} - \frac{(1-t)^2}{2t} - \frac{(2t-1)^2}{2t} - \frac{(1-t)^2}{t} = 1 - \frac{t^2 + 3(1-t)^2 + (2t-1)^2}{2t} \\ &= 1 - \frac{4t^2 - 5t + 2}{t} = \frac{-4t^2 + 6t - 2}{t} = 6 - \left(4t + \frac{2}{t}\right) \end{aligned}$$

ここで、相加平均と相乗平均の関係より、 $4t + \frac{2}{t} \geq 2\sqrt{4t \cdot \frac{2}{t}} = 4\sqrt{2}$

等号成立は  $4t = \frac{2}{t}$  のときであり、 $\frac{2}{3} < t < 1$  から  $t = \frac{\sqrt{2}}{2}$  の場合となる。

以上より、 $f(t)$  の最大値は  $6 - 4\sqrt{2}$  である。

### [ 解 説 ]

有名な反射の問題です。上の解のように折り返しを利用するのが常套手段です。なお、平行四辺形 PQRT の面積は、まわりの三角形を除く方針で計算しています。